

国大化学会第3期を迎えて

国大化学会会長 平井太一郎（昭和41年2部応化卒）

第5回国大化学会総会

会長に就任して間もない平成23年6月4日（土）に同窓会一年の最大の行事である第5回国大化学会総会を横浜崎陽軒本店で開催いたしました。おかげをもちまして多くの会員（学生42人を含め参加総数130人）とご来賓（横浜国立大学理事・副学長國分泰雄様、横浜国立大学工学研究院長・理工学部長石原修様、横浜国立大学理工学部化学・生命系学科長三宅淳巳様、国大生産工学科同窓会監査役山口淳様、水煙会会長長崎駿二郎様、横浜三工会会長上ノ山周様）の出席をいただき、盛会に開催いたしました。

総会におきましては、昨年秋文化功労者を顕彰されました現東京理科大学学長の藤嶋昭様（電気化学科昭和41年卒、同窓委員）より「物華天宝—教育も研究も楽しく—」のご講演を賜りました。光触媒の発見から幅広い利用・今後の発展等の解説に始まり、研究にとって必要なものとして“感動”“良い雰囲気”“基礎をしっかりと（土台が大切）”“広い教養をつける”ことの必要性を話されました。会員ばかりでなく学生にとっても大変役に立つお話であったと思います。藤嶋先生ありがとうございました。

懇親会では理事・副学長國分先生、工学研究院長・理工学部長石原先生からご挨拶をいただきました。特に石原先生からは工学部から理工学部に組織変更した意義・将来像についてのお話をいただきました。そのあと樋口元会長の音頭で乾杯し懇親の場に移りました。今年は例年行っていたビンゴゲームをやめて、同窓生同士の情報交換、同窓生の先輩と学生との話し合いの時間を多く取れるようにいたしました。懇親会を交流の場にしたいという目的は達したように思えますが、これでもまだ時間が少なかったように感じている次第です。

総会・懇親会の運営にあたっては、総会・懇親会Gのメンバー、事務局の滝さん、牧野さん、反町さん及び学生の熱心な活躍に謝意を申し上げます。本当にお疲れ様でした。

国大化学会3期目の方針

国大化学会も発足して5年目を迎えました。第一



期の樋口会長、第二期の米屋会長の後を受けて第三期の会長として総会にて正式に承認されました。

米屋前会長が会誌（5号）で述べられていますように、“まだ組織を固め会員の意見を活動に反映させることが大切な時期である”と私も考えて、第三期目（5年～）の方針を立てました。

1. ネットワークの充実と国大化学会の会員相互の交流

この活動の基本となるのは連絡網の整備です。従来のクラス委員に代わる同窓委員名簿の充実に努力しているところです。従来クラス委員が決まっている、その方あるいはその方に代わる方がおられるクラスはそのまま同窓委員になっていただくのを基本といたしました。しかしクラスがない平成の会員の方々の連絡網をいかにするかが、苦労しているところです。研究室、同好会、クラブ等の組織を使わせていただき同窓委員〈同学年・クラスとは別〉を組織化し連絡網を作ることを、計画し実行しています。個人情報の保護の壁をいかにクリアーできるか難しい問題も含んでおります。会員皆様のお知恵を拝借して進めていき、生きた連絡網の充実を図りたいと思います。

同窓委員の名簿が完成しなくても、できあがっている同窓委員を通しての連絡網の利用、同窓委員を通しての会の活発化に利用するようにしたいと考えています。（担当：企画G）

（第二回同窓委員会）

第二回同窓委員会は4月2日に開催を予定していましたが、東日本大震災の発生で急遽総会当日になりました。時間・参加人数等いろいろ心配いたしておりました。当日は総会前の短い時間でしたが出席

いただきました同窓委員のご協力のおかげをもちまして、十分な成果が出ましたこと同窓委員の方々に御礼申し上げます。

2. 学生支援

2-1 OBと語る会

OBと語る会は国大化学会ができる前からの活動です。時代とともに内容としては変わってきていますが、会員皆様の経験されたことを伝えることは学生にとって人間性・社会性にも非常に役立つものと確信しています。春・秋の2回〈合計4人の会員が話をしています〉行っています。まだOBと語る会でお話になっていない会員の皆様にも是非お話をさせていただくことをお願いいたします。(担当：關先生)

2-2 教育研究支援

学生支援を中心に進めます。なるべく多くの学生の支援をしたいと思えます。留学生の支援についてはその額を減額して実行するようにいたします。

教育研究支援の詳細及びそれ以外の学生支援については“学生支援WGメンバー”で継続検討いたします。(担当：教育研究支援基金運用G)

3. 就職支援

大学を含めて富丘会(経済・経営の同窓会)を中心に各同窓会の就職相談員が集まり、会議を開き担当を決めて就職支援を進めています。

国大化学会で検討していた就職支援とはその方向が少し異なっているように思われます。今後就職相談委員制度に参加しながら、国大化学会独自の就職支援をどうするか検討できたらと思えます。就職支援については、企画Gから独立させた就職支援Gの立ち上げも視野に入れ検討をいたします。(就職支援Gは独立することは会では承認されていますが、人員の件でまだ独立していません。)

4. 会費納入促進

国大化学会が発足する前からの問題であり、我々だけでなく他の多くの同窓会でも抱えている問題と思えます。今後は学内の他の同窓会ばかりでなく、学外の同窓会の会費納入方法なども調査し、会則の変更を含め検討したいと考えています。

(参考)現在の会則・細則

2. 会費の徴収について

(1) 正会員は年額2,000円とし、前納を原則とする。また、複数年分を一括納入できるものとする。

(2) 学生会員は在籍期間中の総額を2,000円とし、卒業時に一括納入とする。

(3) 学生会員は卒業時に4年分の正会費を前納

する。卒業5年以降は(1)の納入方法による。

(4) 特別会員については、会費を徴収しない。

5. 諮問委員の設置

横浜国立大学の全学の同窓会、工学部同窓会をどのようにしたら良いのかを考える時にきていると思います。大学と同窓会とが協力して大学の発展に寄与する姿が求められる時代となってきたのを感じます。

そう遠くない将来に向かい、初めに工学部同窓会をどのようにするか検討に入りたいと思います。本会は5年前3つの同窓会の統合を経験しております。それも参考にして新しい工学部同窓会の姿を提案することを目指したいと思います。

本テーマは国大化学会の活動とは異なる内容なので、新たに諮問委員会制度を作ります。

諮問委員会は会長直轄の委員会として、その都度役員会で報告いたします。

下記の会長経験者を諮問委員にお願いいたしました。

(諮問委員)

樋口前々会長

米屋前会長

(参考・解説)

横浜国立大学の同窓会組織の現状

・横浜国立大学同窓会連合

次に掲げる各学部の同窓会の連合で全学の同窓会となっています。

富丘会(経済・経営系)

友松会(教育系)

横浜国立大学工学部同窓会連合

今までのところホームカミングデー(HCD)を除けば活動をしていないと同じ状態。

HCDは大学と横浜国立大学同窓会連合の共催で開催しています。年度により各同窓会が担当しています。

第1回、第4回：富丘会

第2回、第5回：横浜国立大学工学部同窓会連合

第3回、第6回(今年度)：友松会

・横浜国立大学工学部同窓会連合(代表 井上誠一氏・応化昭和41年卒)

工学部の各科が同窓会を作り、その後統合して現在は下記の8つの同窓会が所属しています。なおこの工学部同窓会連合ができたのは平成13年です。

生産工学科同窓会

水煙会

弘陵造船航空会
横浜電子情報工学会
横浜三工会

横浜国大土木同窓会
横浜知能物理同窓会
国大化学会

東日本大震災で被災された皆様，関係各位にお見舞い申し上げます。